



太平洋の仲間達は、太平洋協会関係者・企業等を紹介するコーナーです。第1回は協和海運株式会社定期船部の山本佳菜さんの活動をご紹介します。



パシフィックウェイ読者の皆様こんにちは。私ども協和海運は創業以来42年、太平洋島嶼国と日本・アジア・豪州を繋ぐ定期航路を運営しています。記念すべき1974年の初航海はフィジーと日本の往復だったと聞いていますが、今ではサイパン、グアム、ミクロネシア、パラオ、パプアニューギニア、ソロモン、トンガ、フィジーなど、15を超える国々や寄港地へネットワークを拡大しています。

皆さまもご存じのとおり、太平洋島嶼国はその地理的要因から製造業が十分に発達していないこともあり、多くのものを外国から輸入しています。食品、衣類、雑貨といった人々の日々の生活に欠かせないものから、建設資材、車両や船などの輸送機器など、インフラ整備や国づくりに関わるものまで、品物の形状、種類は多岐にわたります。弊社では多種多様な形状の貨物を少しずつ輸送でき、機材が古くなった小さな港でも自船のクレーンで貨物の揚げ積みができる多目的船というタイプの船を使用しております。青字に白抜きで「KYOWA LINE」と書かれた船体にはそれぞれ、「Kyowa」+ Cattleya, Rose, Orchid, Hibiscusなどの花の名前シリーズと、「Pacific」+ Condor, Falconなどの鳥の名前シリーズで名前がついており、明るい南国のイメージとともに現地の方々に親しまれています。

昨年は観測史上初めて、毎月台風が発生した年だったそうです。私どもの船は日々台風が生まれる赤道周辺を航行していますので、影響を無視することはできません。7月には次々に発生する台風を避けてルートを変更したにも関わらず、折角入港した港が封鎖され荷卸しが出来ないまま数日滞船を余儀なくされるなどの不運が重なり、船が予

定より7日あまり遅れる事態がありました。9月にミクロネシアのポンペイに顧客訪問に行った際は、商店のお客だけでなく建設業や漁業関係など様々な業界のお客からも、お米や野菜がなくなっただれほど困ったか、切々と訴えられ苦い思いをいたしました。ただ、不謹慎ではありますが、自分の関わる仕事がここまで多くの人々の「当たり前」の生活を支えるライフラインであることを痛感し、仕事のやりがいを感じたのも事実です。

私が入社後初めて「島嶼国らしい」島嶼国を肌で感じる事が出来たのは2014年6月、会議に出席するためYapに出張した時でした。ユナイテッド航空でGuamを出発し、到着したのは午前0時40分。飛行機の窓際の席からはこんもりとした木々の間にぼつん、ぼつんと人家の明かりがともっているのが見えました。同じ会議の出席者がたくさん乗っていたため、空港には民族衣装の女性がフラワーレイをもって出迎えてくれました。翌朝、ホテルの窓の外に広がるあまりにも濃い緑と目を開けていられないほどの日差し、きらきらした海面に心を奪われました。あらゆるものの色がとてもくっきり、鮮やかに目に映ります。個人的な感想ではありますが、地図の中に、スケジュール表

の中に、パソコンのディスプレイの向こう側にしか見えていなかったこの地域と関係を持てたことをとても嬉しく感じた瞬間でした。

商店で私どものお客様が輸出しているお菓子やビールを見つけたり、日本の中古車がたくさん走っていることに気づいたり、日本のODAで立てられた建築物が多いのを目の当たりにして、日本やアジアの「もの」がこの地の人々の生活を彩っていると感じました。また、今年の7月末にパラオに出張した際には現地で活躍されるたくさんの日本の「人」にお会いすることが出来ました。大使館の方、JICAの方、ODA案件に関わる建設会社の方、廃棄物処理からビジネスを生み出しつつある方など、それぞれの方が日本とこの地域の関係を外交、経済、社会、教育など様々なアプローチで深めていらっしゃる姿に大きな刺激を受けました。

私ども協和海運は、貨物の輸送を通してこの地域の様々な人々の生活やビジネスを陰で支えるライフラインであり続けたいと思っています。貨物の輸送のご相談、ご用命はどうぞお気軽にご連絡をくださいませ。

協和海運株式会社概要

名称：協和海運株式会社
(英語名：Kyowa Shipping Co., Ltd.)
東京本社：東京都港区新橋1丁目16-4
りそな新橋ビル4階
設立：昭和49年6月29日
代表者：代表取締役社長 高松 裕満



社会貢献活動として白馬国際音楽祭を毎年開催



南太平洋の人々



マーシャル諸島の人々



グアムの人々



自社所有船舶で日本と太平洋を結ぶ
2009年に進水したKyowa Rose号